

子どもの気づきや感じとりを生かす文学的文章の学習

1 低学年の文学学習で気づきや感じとりを生かす

低学年の子どもは、自分の気持ちや考えを言葉で表現することが、まだ、十分でない。学習では、叙述を離れて思いを表現しがちである。叙述に即して読むことは、学習の基本となるので大切にしていきたい。また、子どもたちは、音声化、動作化などの活動を喜ぶ。低学年では、登場人物に同化する場を設定することが有効な活動の一つであろう。しかし、これだけでは十分ではない。教材に出会ったとき《おもしろいな、なぜだろう》というような気づきや感じとりを教師が受け止め、課題として学習を進めることで、めあてをもって学習に向かうことができると考える。

2 研究仮説と方法

(1) 研究仮説

子どもの感想、意見、疑問から学習課題を作り、場面に応じた活動によりイメージ化させていくなれば、豊かに読み取り学習について自分なりの振り返りを行うであろう。

(2) 方法

① 感想、意見、疑問を本文に書き込み、その中から問題作りをする。

話し合いにより共通の課題を作る。

② 場面に応じて、音読、書く活動を取り入れ選択する。

③ 「まとめる」過程（学習ステップ参照）で自己評価する。

3 実践の概要—気もちをを考えて読もう「お手紙」（第2学年）—

(1) 単元について

本単元は、かえるくんとがまくんの心の触れ合いを描いている。かえるくんが、がまくんに宛てた手紙は、「親愛なるがまがえるくん」で始まり、「きみの親友、かえる」と結ばれている。手紙が来ないとすねるがまくんは、かえるくんの行動によって、身近な友達の存在に気づく。本単元では、会話文に着目させた音読、ふたりの気持ちを書く活動を中心にして、二人に同化し読むことができるようにしたい。

(2) 単元の目標

① 場面の様子や登場人物の気持ちの変容から心の触れ合いを読み取る。

② 会話文を中心に、音読したり書いたりすることができる。

(3) 指導内容と計画 (全18時間)

第一次 お話を聞いたり書き込みをしたりして、感想、意見、疑問をもつ。

感想、意見、疑問を整理し、学習課題を作る。(6時間)

第二次 場面の様子や登場人物へ手紙、続き話などで表現する。(3時間)

(4) 学習課題作り

① 感想、意見、疑問をもつ

リレー読みで通読した後、本文を印刷したプリントに書き込みをさせた。書き込みの前に「どんなことをみんなで考えていきたいか」と問いかけた。

書き込みの前に出た意見

👤1 ページがかわったとき、がまくんとかえるくんの気もちはどうにかわったかを、がまくんとかえるくんの気もちになってみる。

👤1 さいしょとさいごのがまくんの気もちをくらべたい。

👤2 アーノルド・ローベルさんが、どんな気もちでこのお話を書いたのか考えたい。

👤1, 👤1の意見を取りあげながら、「がまくんとかえるくんの気持ちが分かるころに書き込みをしよう。」と投げかけた。👤2については、学習のまとめでいっしょに考えることにした。書き込みの中から、「いっしょに考えたい問題」をプリントに書かせた。出て来た問題は、79問。全ての問題を、次のように教師が分類し、プリントにして子どもたちに提示した。

○場面別に

○登場人物別に (かえるくんのしるし《◆》, がまくんのしるし《◇》
ふたりのしるし《☆》, かたつむりくんのしるし《§》)

出された「いっしょに考えたい問題」の中には、共通課題にならないものがたくさんあった。それらの子どもたちと話し合い、次のように整理した。

すぐに答えが見つかるもの

- ・えんぴつと紙を見つけて何をしようとしたのかな。
- ・どうやってお手紙をわたすの。
- ・「まかせてくれよ。」と言ったのはだれですか。など

話し合っ
て答えを
書きこむ。

答えの見つからないもの

- ・がまくんは、どうしてお手紙がもらえなかったの。

話し合っ
て

<ul style="list-style-type: none"> ・何でふうとうは白なの。 ・4日もねなかつたの。など 	← ?マークを書きこむ。
—共通課題としたもの— <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、ふたりともかなしい気分でげんかんの前にこしを下ろしていたの。 ・「しなくちゃいけないことが、あるんだ」と言ったけど、ぜったいしなくちゃいけないことなのかな。 ・お手紙をもらった時どんな気持ちだったかな。など 	← 場面ごとに考え合う。

(5) 学習の見通しをもつ

① 場面に応じた学習活動を選ぶ

『お手紙』を勉強するにしたいこと」アンケートをとった。

—こんなことがしたいな (主なもの)— ☆音読 23名 ◎視写, 書き込み 27名 ◆続き話 13名 ☆◆手紙 8名 劇, ペープサートなど発表会 4名	← ◎課題作りに ☆読み取りに ◆「つくる」過程の表現に
---	------------------------------------

書く活動では、手紙の他に、吹き出しや会話形式のワークシートを用意し選択させた。

② 学習計画を見通す

単元を見通すことができる手だてとして、「学習計画表」を子どもにもたせた。また、1場面の絵を教室に提示し、(絵の下には幸せな気持ちで玄関に座っている絵を隠している)「お話の終わりにがまくんとかえるくんは、どのように変わるかな」と投げかけ学習への意欲が高まるようにした。この絵は、(6)②の学習時に使用した。



(6) 第二次の学習より

① 本時の目標

お手紙が来るのを待っているふたりの気持ちを考え書くことができる。

② 学習の展開

前時の学習 お手紙のことを話したかえるくんとそれを聞いたがまくんの気持ちを音読する。	
学習過程と発問・支援	児童の反応と学習活動
【めあてをつかむ】	

<p>1 本時のめあてをつかむ。 T今日のハートマークはどうなるかな。 《ハートマークを黒板に提示》《めあてを板書》</p>	<p>C大きくなるよ。</p>
<p>☺ お手紙が来るのをまっているふたりのしあわせな気持ちを考え書きましょう。 ☆1 「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」と言ったがまくんはどんな気持ちかな。 ☆2 ふたりは、どんな気持ちでげんかんの前にすわっていたのかな。</p>	
<p>【めあてを追究する】 2 本時の場面を音読する。 T「」をふたりはどんな気持ちで言っているのか考えながら読みましょう。 3 会話文からふたりの気持ちを考える。 T「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」は、どんな気持ちで言っているのかな。 《児童の発表を板書、音声化についての気づきと気持ちの発言を分けて板書》</p> <p>T この間K君が「親愛なる」ってどんな意味かになって言ったね。これも考えたらいいね。さっきからお手紙について発表しているけれど、どんなお手紙だったのか、そのお手紙を読んでみて。 《手紙文に目を向けさせる》 Tがまくんはこのお手紙のどんな所にいいお手紙だと思ったの。 T先生がお手紙を書くから、みんなで教えて。 《手紙文を板書、「親愛なるがまがえるくん」「きみの親友」に傍線を引く》 Tうれしそうに読んでみて。 THさんは心がこもったお手紙だって言ったね。Kさんとかえるくんとがまくんになって読んでみて。 Tこのお手紙についてお話ししたい人。</p> <p>T 1 場面でも「ああ。」があったでしょ。違うの。同じかな。読んでみよう。 《「ああ。」の言葉の違いに目を向けさせる》 Tふたりはどんな気持ちで玄関の前に坐っていたのでしょうを考えよう。 《1場面の絵を本時の場面の絵に変えて提示》 Tきょうのハートマークは、どうなるの。 《ハートマークで気持ちの変化を確認する》</p> <p>T大きくして二人とも同じ大きさになったの。 T「」を二人の気持ちになって読みましょう。 T二人の気持ちを考えて書きましょう。 《選択できるワークシートを提示》 【振り返る】 T今日の学習を振り返って書きましょう。 《自己評価カードを配る》</p>	<p>C (板書のめあてを読む。) C (一人読み、リレー読み)</p> <p>Cがまくんは、初めてお手紙をもらって心がこもっていたから「ああ。」といった。初めてでうれしい。 Cかえるくんからお手紙がくるとは思わなかった。優しそうな声で言ったと思う。 Cやっぱりかえるくんは親友だと思った。 C心のこもった言い方でいったし、とてもうれしいと思うお手紙だった。 C「親友なる」という言葉がうれしかった。 Cかえるくんは、前からがまくんにお手紙を書いて気持ちを伝えたかったと思う。 C (指名読み)</p> <p>C「はくはきみが」に心をこめて読む。</p> <p>C「親愛なる」「きみの親友」という言葉で思った。(多くの子どもが着目する) C (手紙文を一斉読み) Cかえるくんは友達なんだよという気持ちを全部お手紙に書いてうれしそうに読んだ。(手紙文を音読) C (役割読み)</p> <p>C「親愛なる」「きみの親友」は不幸せの反対で幸せのこと。 Cお手紙でがまくんのハートマークがかえるくんのハートマークより大きくなった。 C「はくは、きみがはくの親友であることを」の所で一番気持ちがあるよ。</p> <p>C違うよ。 C (一人読み) C (指名読み、相互評価) C悲しい気分が幸せになった。 C顔がうれしそうに笑っている。 C肩に手をおいているよ。 C「ふたりともとてもしあわせな気持ちで」と書いてあるから、ふたりの気持ちはびったんこ。大きくなったよ。 Cふたりのハートマークは同じ大きさ。 Cそうそう。(つぶやきや拍手) C (指名読み) C (手紙文、吹き出し、対話形式のワークシートを選択して書く)</p> <p>C (自己評価カードに書く)</p>
<p>次時の自習 お手紙が届いた時の二人の気持ちを考え書く。</p>	

本時では、(☆1)の解決に音読を、(☆2)の解決に吹き出し、手紙、対話形式のワークシートを子どもたちを選択させ書かせた。

③ 本時での振り返り

自己評価カードによる振り返りは、記号と自由記述で行った。「あしたが楽しみ」と書いている子どももいた。

—自由記述より—

😊がまくんは、お手紙がどんなにうれしいものかわかったでしょう。お手紙っていうのはすごい力をもっていますね。かえるくんは来ないと言われてつらかったでしょう。でも、がまくんがやっとわかってくれてよかったですね。

😊あしたはお手紙をまつだけと思っていたら、4日も長くまっていなければ……。でも、この話はこういうふうに行っているんだものね。

自己評価の観点（記号で）
 ・「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」と言ったがまくんの気持ち考えた。
 ・お手紙が来るのをまっているふたりのしあわせな気持ちを考え書けた。
 （よくできた😊，できた○，もう少し△）

(7) 学習を振り返る—「まとめる」過程（学習ステップ参照）—

ワークシートにより次の3項目で自己評価させた。

① 活動の振り返り（記号で、よくできた😊，できた○，もう少し△）

- ・もんだいをいっしょうけんめい考えた。（※）
- ・場めんごとにもんだいを考えた。（※）
- ・ふきだしや手紙，会話など思ったことを書いた。
- ・気持ちを考えてとなりの人やグループの人と音読した。
- ・アーノルド・ローベルさんの気持ちを考えた。
- ・「お手紙」の学しゅうをして楽しかった。

（※）ではほとんどの子どもが😊を記入していた。
 ○2名
 △1名

① 課題作り，解決の仕方の振り返り（自由記述）

- 😊場面のもんだいを作れたし，いろんなもんだいの答えを考えた。こんどのお話ももんだい作りをやりたい。もんだい作りはきちんとできた。
- 😊もんだい作りはむずかしいところもあったけど，きょう，このもんだいをとくぞとか，おわってこうなんだと思ってよかった。
- 😊なやんだりわかったと思ったりしたけど，アーノルド・ローベルさんやがまくんやかえるくんのきもちを考えられてうれしかった。
- 😊もんだいを作るときみんなで話し合っただけでなくよくできてよかったです。むずかしいのはあとまわしにして考えるのも楽しかった。
- 😊いろんなはっぴょうが出てよくわかりました。となりの人と「」を読

むときが楽しかったです。1もん1もんむずかしかったけれど、みんなでもんだいをとくのはとても楽しかったです。

③ 次の学習でしてみたいこと

もんだい作り，音読，劇などの記述があった。

4 考察

(1) 課題作り

課題作りの振り返りから、「課題作り」は難しいととらえているようだ。しかし、一人一人の問題を話し合い整理したことを、楽しかったと答えている。このことは「ほかの人のを見ていたらこんなもんだいにすればよかったと思いました」「いろいろなもんだいがあるなあと思いました」の記述からも考えられる。共通の課題を話し合うことで、自分とは違う友達の考えに出会い、こんな問題がいいのかなと気づかせることができたと考える。

(2) 場面に応じて活動を選ぶ

「第二次の学習より」の学習の展開では、手紙文を音読することと手紙をまっているふたりの気持ちをワークシートに書くことを活動に選んだ。音読では、「優しそうに読んだ」「うれしそうに読んだ」「心をこめて読んだ」など音声化に触れたものがある。「親愛なる」とか「きみの親友」の言葉をてがかりに、かえるくんの気持ちを想像し音声化できた。音読は、気持ちを考えさせるのに効果的であったと考える。また、玄関に座っているふたりの言葉は本文にはない。どんなことを話しているのか、心の中でどんなことを思っているのかを、これまでの学習から、思い思いに想像できる。子どもの記述から、がまくんに気持ちが届いたことを喜ぶかえるくんやかたつむりくんに早く来てよと願うふたりになって書いていたと考える。

(3) 「まとめる」過程での振り返り

課題を解くことをクイズみたいだと書いた子どもがいた。答えを見つける楽しさがあるのかと改めて気づかされた。「みんなで力をあわせてがんばりました。一人の力よりみんなの力を合わせるともっとすごくなると思います」「こんどもしてみたいなって思うくらい楽しかった」という記述からも思いが伝わる。振り返りは、観点に沿ってという点で、十分とはいえない。もっとこうすればよいなどの問題点を見つけさせていく必要がある。学習の楽しさが次の学習への意欲となるという意味で成果があった。（羽場 邦子）